



LIONS CLUBS
INTERNATIONAL
DISTRICT 331-C
2010-2011
JAPAN

ライオンズクラブ国際協会 331-C 地区会報

THE LIONS

ECHO

Vol. 1

2010 START 号



2010-2011 国際テーマ

『希望の光』



2010-2011 331-C 地区 ガバナーズローガン

『チェンジにチャレンジ』



地区ガバナー基本方針

1. キャビネットの役割

- ・国際協会や国際会長の方針を地区会員に伝え、理解を促す。
- ・地区やクラブが円滑に、活発に運営できることに努力する。
- ・主権在クラブとして、クラブ自らチェンジすることに助力する。

2. ガバナー公式訪問の大幅な日程変更の設定にチャレンジ

- ・多くの会員とディスカッションするために。

3. クラブ運営のあり方にチェンジ

- ・ZCPの重要なミッション
- ・運営費と事業費の割合の見直し
- ・例会やアクティビティの再検討

4. 郊外PRを含めた情報提供の再構築にチャレンジ

- ・PR委員会とIT委員会の機能的な統合
- ・エコ誌の内容検討とホームページの活用

5. ライオンズクエストの普及と研修機会の強化にチャレンジ

- ・LCIFからの交付を複合の委員会で一括申請
- ・委員会構成の強化

6. 青年アカデミー委員会の設置にチャレンジ

- ・若手メンバーの研修機会の創設
- ・若手メンバー同士のメールやインターネットでの会議
- ・地区の横断的な連携強化とモチベーションアップ
- ・職業と奉仕活動の両立を模索・検討
- ・将来のライオンズクラブのあり方を検討



ガバナーズローガン『チェンジにチャレンジ』

世界規模の経済不況の影響を受け、社会情勢が不安定な中、各クラブの運営・活動についても少なからず影響を受けているところであります。

「全ての組織や団体は、将来に対するビジョンと日々の改革がなければやがては淘汰される」と言われます。私どもライオンズクラブの組織に当てはめてみるとどうでしょうか。

未来に対するビジョンの欠如・継続アクティビティーという名のマンネリ化、会員減少は長引く不況だから・・・の諦めと嘆きであります。

先輩ライオンが崇高な理念と活動で営々と築いてこられたこのC地区を、次代のニーズにあわせた組織に構築し

なければと痛感いたします。

キャビネットがあつてクラブが在るのではなく、所謂「主権在クラブ」であります。それぞれのクラブが可能な限りのチェンジにチャレンジし、日々改革することが隆々発展することであり、組織の更なる強化に繋がると考え、キャビネットはその支援機関と位置づけられるものと思います。

地区が一丸となり、一人一人がライオンとしての矜持をもてるために、小さなことにでも関心を持って「チェンジにチャレンジ」しましょう。

この思いから、次期ガバナーズローガンを『チェンジにチャレンジ』としました。

シンボルマーク

大切な森を守る母なる木 “ブナ” このブナの葉をモチーフにしました。

ブナの森林帯は雨の多いときには水を蓄え、乾季にはその水を供給して大地を潤す循環型自然環境を形成し、環境のセンサーツリーとされています。

黒松内町は天然記念物「自生北限の歌オブナ林」を擁することから、ブナの一番元気な深緑色を基調にし、シンボルマークとします。





「チェンジにチャレンジ」



331-C地区
地区ガバナー

L 茂 尾 実
(黒松内 L C)

第56回地区年次大会において、地区ガバナーにご推挙いただきました。浅学非才な者として光栄でありますと同時に歴史と伝統のあるC地区の運営にあたることに緊張感で身の引き締まる思いであります。小さな町からキャビネットをお預かりしますことは、ローカル目線でタイトな地区運営に少なからず期待を寄せられ、そのことを「よし」とした地区の総意であろうと真摯に受け止めております。

さて、キャビネットの役割は国際会長の方針を地区の会員皆様に理解頂き推進することに努力することと、クラブが円滑に運営することに支援を惜しまないこと、所謂「主権在クラブ」と位置づけされると考えております。その組織機能としてゾーンチェアパーソンが最前線でクラブが自ら改革しよう

としていることに助力しなければなりません。クラブは改革の目標を定めてゾーンチェアパーソンと協議を頻繁に行ってください。ガバナーの公式訪問を大きく見直しました。会員の参加機会を多くするために参加しやすい日程(土・日・祝祭日)を設定し、参集範囲を拡大してデスカッションの時間を多くし会員一人一人と意見交換することといたしました。エコー誌編集委員会とIT委員会を機能的に統合して記載内容を検討し、地区のホームページ等の活用を推進することといたします。経済的に豊かで意識や多様化する価値観になった日本の「負の遺産」に青少年の心の問題が挙げられます、ライオンズクエスト事業は青少年育成の一助になることと捉え、継続・強化をはかってまいります。

会員の維持増強につきましては、長期的な展望にたって「青年アカデミー委員会」を新たに立ち上げ、比較的に若いメンバーのクラブやゾーン・リジョンを超えメールやインターネットでのコミュニケーションを図りながら、地区の横断的な委員会にいたします。

このことは第一線で仕事を持つ若い会員が、ライオンズクラブと職業を両立していくための大きな検討課題を模索していただけるものと期待しておりますし、ライオンズの奉仕の哲学を次代のニーズにあわせた研修の場に活用したいと考えております。

先輩ライオンが誇りをもって汗してきたC地区の将来に今、若い会員の奉仕に対するモチベーションが高まること、さらにはよい出会いがあり、自分を育て互いに研鑽しあうことが将来の会員増強に繋がることを信じております。

若い会員はクラブにとっても地区にとっても大切な宝であることをご理解ください。シド・スクラッグス三世国際会長から「会員増強は、地域の奉仕活動の増加である」とメッセージが寄せられております。

世界の隅々でわれわれの奉仕を待っている方がいることを承知して、誇り高い奉仕の仲間を増強することは、われわれの重要なミッションであります、以上今期地区運営の重要な目標課題を強力に展開して行く所存であります。全ての組織や団体は「将来に対するビジョンと日々の改革がなければやがては淘汰される」といわれます、地区会

員皆様のそれぞれのお立場でチェンジできることには勇気を持ってチャレンジをお願い申し上げ、地区ガバナー就任のご挨拶といたします。



▲ 第56回地区年次大会(函館)より



331-C 地区 役員ご挨拶



前地区ガバナー

L 青 木 誼
(函館LC)

オーストラリア・シドニーのライオンズクラブ国際大会にて、331-C地区ガバナーの称号を授けられた、L茂尾実ガバナーに限りないエールを送りたいと思います。

茂尾ガバナーの誕生をC地区の多くのメンバーは待ち望んでおりました。経済状態が今一つ不透明な現代社会では、会員増強は非常に難しい問題が潜んでいる状況とはいえ、クラブの活性化は会員増強以外ないと信じ、真摯に取り組んで参りました。しかし私が満足できる成果は得られませんでした。

茂尾ガバナーは何事にもチャレンジの精神で成し遂げられているものと、私は固く信じております。C地区のエースとして誇り高い茂尾地区ガバナーのご活躍にご期待申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。



第一副地区ガバナー

L 中 嶋 辛
(室蘭北斗LC)

夏本番、風薫る良き時節に成りました、ライオンの皆様には益々ご隆盛の事とお慶び申し上げます。

この度、第一副地区ガバナーをお引き受するに当たり一言御挨拶を申し上げます。私たちライオンズメンバーは、それぞれの立場で、地域にそして世界にと奉仕活動をしています。

昨今の世界経済、日本経済の低迷、会員減少どれを取っても、大変厳しいものがあります。

その様な時期に、此の大役をお引き受けする事は大変身の引き締まる思いと同時に、私に課せられた事の重大さをひしひしと思い知らされております。

「自由を守り、知性を重んじ、我々の国の安全を守りそして我々は奉仕する」ライオンズクラブのスローガンとモットーを大切に一年間黒松内キャビネットの元、しっかり勉強させて頂き、皆様と共に良いクラブ活動が出来るように努力して参ります、どうか331-C地区メンバーの皆様宜しく御願い致します。有難う御座いました。



第二副地区ガバナー

L 奥 山 幸 一
(函館臥牛LC)

5月16日に開催されました地区大会に於いて、第二副地区ガバナーに選出され、荷重くして道遠し、の心境で御座います。今期、私の職務は、ガバナーチームの一員として、茂尾ガバナー掲げる、プログラムを補佐をする、その各種プログラムの中でも、喫緊の課題で御座います会員減少の問題、極めて憂慮すべき状態であります。見識豊富な地区名誉顧問、地区内メンバー諸氏のご指導を仰ぎながら、豊富な経験と英知を有する会員の維持、将来クラブを担ってゆく青年会員の増強、これらのテーマに、皆様方と共に、勇気と情熱を持って会員減少の留処策に、不断の努力を惜しむ事無く取組んで参りたいと存じます。又、茂尾ガバナー基本方針の、諸プログラム達成に一意専心を以って励む所存で御座います。メンバー各位に一層のお力添えをお願い申し上げます。



キャビネット幹事

L 木 村 征 二

(倶知安LC)

本年度 茂尾ガバナーのもと キャビネット幹事をお引受けすることになり、身の引き締まる思いであります。

地区ガバナースローガンにあります「チェンジにチャレンジ」に意味深いものを感じ、心を打たれました。このC地区がモデルになるような環境作りに一年間努力いたす考えであります。地区クラブの若い会員のお力をおかりし、地域の発展に微力ではありますが取組んで行く所存であります。

会員皆様のご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。



キャビネット会計

L 酢 谷 昭 雄

(岩内LC)

茂尾ガバナーは「チェンジにチャレンジ」をスローガンとして掲げました。会員の減少を会費の値上げでカバー出来る経済状況に無いことは明白であります。そこで如何に限られた予算で効率的な事業を運営するかをガバナー始め、キャビネット役員は腐心したところでした。或る程度質を落さず事業計画を立てることが出来たことで正直一安心致しました。各クラブの一人一人のメンバーも是非キャビネットに対して思っていることをお寄せ下さい。各クラブとキャビネットは相互通行の関係であって、決して一方通行ではないことは当然であります。ガバナーが掲げたスローガンをメンバーひとりひとりが

心に受け止めて、ガバナーと同じ思いを共有して会の発展に尽していただく様お願い申し上げます。就任の挨拶と致します。一年間宜しくお願い申し上げます。



長期計画リサーチ委員長

L 小 玉 誠

(苫小牧白鳥LC)

この度、黒松内キャビネットより長期計画委員長就任要請があり、お引き受けすることとなりました。

地区ガバナー L 茂尾実のスローガン「チェンジにチャレンジ」に込められた、クラブが抱える問題点を見つめてみますと、まさにチェンジ(変革)を成し遂げていかなければ成らない事が多々あるのではないのでしょうか。

331-C地区各リジョンがクラブ数の減少等があり、地区全体のリジョン・ゾーンの見直しも緊急の課題と思いますが、MERL委員会の組織強化を図り、若手・女性会員の増強の方向性を考えなければならないと考えます。

長計委員会活動は即効性がある委員会であるとは思いますが、地区が抱える問題点を解決していくため、会員皆様のご協力をお願いいたします。



地区大会委員長

L 川 上 正 宏

(倶知安LC)

黒松内キャビネット茂尾ガバナーのもと、大会委員長に就任いたしました、倶知安ライオンズ





331-C 地区 役員ご挨拶

クラブ所属 L川上正宏です。役員就任に当たり、皆様にご挨拶申し上げます。

黒松内キャビネットは、第2Rで長年キャビネットを引き受けてこられた小樽市に替わり事務局を黒松内町に大会開催地を倶知安町に設定しスタートいたします。

倶知安町は人口15,500人の町であり、函館や小樽のような立派な会場はありませんが、後志地域13のホストクラブ全員の知恵と創意で、記憶に残る大会にしようと思っています。

茂尾ガバナーのスローガンは「チェンジにチャレンジ」であります。地区大会も原則を守りながら大胆にチェンジしていくつもりです。御支援よろしくお願いいたします。



国際協調委員長

L奥村 哲央

(国際大会参加、
小樽みなとLC)

この度国際大会参加、国際協調委員長を拝命致しました小樽みなとライオンズクラブ所属 L奥村哲央です。1976入会35年目を迎えます。この間今回の黒松内茂尾ガバナーで5人のガバナーにお仕える事になりました。国際大会には8回参加しました。東洋東南アジアフォーラムは地区の友好親善を目的に開かれ、楽しいイベントもありますし、会員同志のバッチバナーの交換も行われた事も記憶しております。世界大会は日本の国際理事の選挙は勿論の事、会員の権利主張を投票する事により実現する大切な大会です。

11月18日より台湾高雄にてアジアフォーラム、来年7月4日よりアメリカ、シアトルにて世界大会が開催されます。会員の皆様の多数の参加をお待ち致しております。就任に当たりご挨拶とさせていただきます。



ライオンズクエスト委員長

L石橋 美枝

(小樽グリーンLC)

薫風の候、ライオンズクラブ国際協会 331-C地区会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また平素は格別のご高配を賜り心より厚くお礼申し上げます。さて、この度、平成22年7月～23年6月の一年間、黒松内キャビネット・茂尾実ガバナーのもと、ライオンズ・クエスト委員長を務めるようご選任いただきました 331-C地区第2リジョン第1ゾーン小樽グリーンライオンズクラブ所属の石橋美枝と申します。これまでクラブではいくつかお仕事をさせて頂いて参りましたが、準地区でのお仕事は初めての経験となります。この大役を若輩者の私が引き受けさせて頂いた思いをこうして皆様にお伝えする良き機会を頂いた事に心より感謝申し上げます。

皆様もお察しの通り、我が331-C地区では「ライオンズ・クエスト」という事業そのものがまだまだ浸透しておりません。歴代のライオンズ・クエスト委員長は、皆様お一人で駆け回られ大変なご苦労をなさった事と推察致しております。331-C地区における『ライオンズ・クエスト』の始まりは、実は今を遡ること4年前、当時の寿浅ガバナーがLCIFに四大交付金の申請書を出して、次期の後藤ガバナーが「ワークショップの開催」を行った事からでした。その後、後藤ガバナーから小玉ガバナーへ、そして青木ガバナーへと、三年間に渡ってライオンズ・クエスト事業は引き継がれて参りました。そして今期、茂尾ガバナーは「ライオンズ・クエスト」を我が地区に根を生やす事業に育てる為に秘策を考えておられます。

私ごときに何が出来る訳では御座いません。そして大変微力では御座いますが、我が地区において不毛の事業と呼ばれている「ライオンズ・クエスト」を、皆様のお力をお借りし、無事に実りのある事業へと変えるお手伝いが出来ればと思っております。前途は多難と思われませんが、皆様の熱い奉仕の精神が支えとなり「ライオンズ・クエスト」が実りある事業に育つ事を心よりご祈念申し上げて、委員長就任のご挨拶とさせていただきます。



会則・指導力育成委員長

L 野 上 良 元

(寿都LC)

この度、会則、指導力育成委員長に就任いたしました野上良元です。

亡父がライオンであったため平成9年に寿都ライオンズクラブに入会し仲間と一緒に奉仕活動に関わってまいりましたが、必ずしも成績の良い会員ではなく、例会出席は年に2～3回程度で心苦しく思っておりましたところ、クラブ3役に指名され会計・幹事・会長と立て続けに経験させられ現在にいたっております。

会員減少は地区全体の危急の課題で、私の会長時にも3名が退会され、その原因はさまざまな理由があると思いますが、憂慮いたしております。なかなか妙案も浮かばないのが現況であります。会則、指導力育成については、まったくの素人で、責任の重さと不安を感じていますが私自身も勉強しながらこの一年、新会員が一人でも増えますように努力精進してまいりますので、会員皆様の温かいご協力、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げ挨拶と致します。



薬物乱用防止委員長

L 氏 家 国 博

(倶知安LC)

この度、薬物乱用防止委員長に就任することになり、大変光栄に存じますと共に、その重責に身の引き締まる思いであります。ライオンズ歴も浅くその器ではないとご辞退申し上げましたが、色々な経緯でお引受けすることとなりました。最近、芸能界を始め大学生・主婦たちが薬物の道に入り込んでいます。未来のある子供達が、その道に進まぬよう薬物乱用「ダメ・ゼッ

タイ」を推進して行きたいと思いを。

茂尾ガバナーの活躍を物心共に全力でご支援させて頂くつもりです。薬物乱用防止委員長として何が出来るか不安もある私ですが、331-C地区皆様のお力添えを頂き、ご期待に沿えるよう努力致しますので、ご支援の程よろしく願いいたします。



環境保全・社会福祉委員長

L 稗 田 静 男

(黒松内LC)

この度、茂尾ガバナーのもと環境保全・社会福祉委員長を仰せつかりました債務の重大さを痛感致しています。

黒松内町は天然記念物〈歌オブナ林〉がありますが、故・北大名誉教授新島博士が『人間は自然を作ること出来ないが自然を守ることが出来る』と言われており、この言葉を大切に自然環境を守る為、あらゆる機会を取らえ植樹を推進したい。高齢社会は一人暮らしや夫婦世帯の増加が確実に到来します。この方々が安心して暮らせる社会環境の整備が必要です。

誰もが人生80年時代を迎えます。これらの方々に安否の確認や声がけとしての給食サービスや訪問サービスを行っています。誰もが80年人生を迎えます。安心した社会福祉づくりに取り組みたい。各地区クラブの皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。



青少年キャンプ及び
交換委員長

L 蔭 田 裕

(岩内LC)

今期、茂尾ガバナーのもと、このような機会を与えて頂き、大変感謝すると共に身の引締る思い





331-C 地区 役員ご挨拶

で一杯です。

さて今、青少年を取り巻く環境は決して楽観できるものではありませんが、今期はYE事業の原点に立ち帰りYE事業の目的でもあるライオニズムを通して、国際理解と親善を促進する為、異なる文化的背景を持つ家庭や地域社会と交流を持ち諸外国の人々に接する機会を与えるという理念の元、この一年を通して会員の皆様と共にYEの事業を進めてまいる所存です。又、受け入れ生、派遣生共にこの経験が個々の人間形成の基礎となってくれる様に願っております。

各ライオンズクラブの皆様方のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。



地区MERL委員長

L坂本 誠一
(余市LC)

前期MERL副委員長、今期委員長と2期続けてMERL委員会に携わることになりました。微力ではありますが、茂尾ガバナーの下、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。

MERL委員会は、会員増強（維持）を目的とした委員会です。しかしながら、毎年最重点課題として取り上げておりますが、いっこうに目立った成果が現れていません。最近の傾向を見ますと、新会員の入会も多いのですが、退会する会員が数多く発生していると言う現状にあります。これらの現状をふまえて、今年度、リジョンチェアパーソンと共に、ゾーンチェアパーソンと連携を組み、MERL委員会と関係の深い、各クラブの会員委員会に働きかけ、会員増強のあり方、新入会員オリエンテーション等の資料の提供や、これらの講師の役目を通して、会員増強の為の「特効薬」作りの薬局のような役割を果たして行きたいと思っております。どうか、一年間、ご指導ご協力のほど、よろしくお願い致します。



LCIF委員長

L永井 恵亮
(岩内LC)

今年度茂尾ガバナーの下で、LCIF委員長を仰せつかり、身の引き締まる思いでございます。自クラブより外に出たことがなく、経験不足とは存じますが、茂尾ガバナーの“チェンジにチャレンジ”を胸に一年間、自分にチャレンジして行こうと思っております。

国際協会の慈善部門としてのLCIF(国際財団)の奉仕活動につきましては視力ファースト交付金そして一般交付金があり、ライオンズクエストはこの一般交付金より導入されております。そしてこれを支えているのがメルビン・ジョーンズ・フェロー(MJF)とクラブからの20、50、100ドルの拠出、その他献金です。

長すぎる景気の低迷、また会員数の減少など大変な時期ではございますが、地区内の各クラブ、そしてクラブ内メンバーの皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



PR・IT情報委員長

L増田 通彦
(小樽LC)

ITとエコ誌編集の委員会合併は、一見「異越同舟」のように思えますが、複合・キャピネットからの伝達事項、各クラブの活動報告等は、ITのオンライン化と重複します。急な改革は必要ないと思いますが、将来はインターネットとエコ誌は連携が出来ると思います。今回のエコ誌は質素でカラー印刷も表紙だけですが、地区機関誌として、クラブ運営、アクティビティを中心にITと連帯してやってまいります。特にITに詳しいL大倉と文才に長けたL清水の2人が、副委員長になり、委員会一同、全力で頑張ります。ご協力ご支援、誤脱のお許しを、お願い申し上げます。



キャビネット運営委員長
L花田 忠雄
(黒松内LC)

“チェンジにチャレンジ”をスローガンに茂尾実ガバナー率いる今期黒松内キャビネットは、これまでになかった地方色の濃いものになるだろうと思いますが、会員の皆様にも都市部とは違ったローカルをご理解いただきながら、運営を進めてまいります。

各役員の自主性を尊重するガバナーの方針もあります。皆様の熱い思いをライオンズクラブ本来の奉仕の輪と強い仲間の繋がりになればと思っています。明るい材料が少ない厳しい社会情勢の中で、関わってこれたことに喜びと誇りを持てる一年にしたいと思っています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。自然にやさしい里山づくりを進めているキャビネット事務局のあるまち黒松内へお立ち寄りください。

どうぞ一年間よろしくお願い申し上げます。



第1R
リジョン・チェアパーソン
L滝川 康夫
(函館LC)

本年度、茂尾ガバナーのもと第1Rリジョンチェアパーソンに任命されました。前期函館キャビネットにて第1R第1Zゾーンチェアパーソンとして一年間頑張って務めてまいりました。二年続けての大役に身の引き締まる思いがしております。今クラブの現状を見ますと、経済不況、高齢による退会者が数多く見られ、危機を感じております。各クラブの三役と会員理事の皆様には、会員増強について頑張ってください様、

よろしくお願い申し上げます。今期MERL委員会の一員として、永遠のテーマであります会員増強について、私の責務として努力して行く所存でございますので、第1Rライオンの皆様には絶大なるご協力を賜わります様、重ねてお願いを申し上げ、就任のご挨拶と致します。



第1R第1Z
ゾーン・チェアパーソン
L内田 尊之
(北檜山LC)

今期、茂尾実ガバナーのもとで第1R第1Zゾーンチェアパーソンを拝命致しました北檜山ライオンズクラブ内田尊之です。

未だに回復の兆しが見えない地域経済下で、各クラブにおかれましては厳しいクラブ運営を余儀なくされている事とご推察致します。

しかし、厳しい状況下にこそ茂尾ガバナーの基本方針「チェンジにチャレンジ」を推進し、時代に沿った変革が必要であると考えます。

微力ではありますが、滝川康夫リジョンチェアパーソンのご指導を頂きながらゾーン発展に努力する覚悟でございますので、第1R第1Z各クラブの皆様のご協力とご指導を賜りますようお願い申し上げます就任のご挨拶とさせていただきます。



第1R第2Z
ゾーン・チェアパーソン
L北島 孝雄
(木古内LC)

本年度、茂尾実ガバナーのもと、第1R第2Zのゾーンチェアパーソンを引受けるにあたり、その責任の重さに身の引き締まる思いをしております。





331-C 地区 役員ご挨拶

茂尾ガバナーのスローガンである「チェンジにチャレンジ」を具現化していくためにも滝川康夫リジョンチェアパーソンのご指導を頂きながら、ガバナーの思いを的確に会員の皆様に伝えと共に、各クラブ会員のご意見をガバナーに届ける事も、重要な役割と考えております。

しかしながら昨今、経済不況・少子高齢化等々……、ライオンズクラブに与える影響も大きく会員増強とは裏腹に、年々減少の一步……、危機感さへ覚えるほどです。

今こそ、クラブ同士の交流を深め、目的を共有し掲げ“心をひとつ”にして前進しようではありませんか！1年間、精一杯、努力をして参りたいと思いますので、ゾーン委員・各クラブ会員の皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。ZCのご挨拶と致します。



第2R
リジョン・チェアパーソン

L 田 島 幸 明

(小樽うしおLC)

次期黒松内茂尾キャビネットで、第2リジョンのリジョンチェアパーソンを申し就けられましたL田島です。一昨年函館の後藤キャビネットで、第2ゾーンのゾーンチェアパーソンを経験させられ、当時はゾーンの各クラブメンバーにいろいろ教えを頂き大変勉強になった思いがあります。さて過去日本経済が失われた10年と云われ始めてから期を一にして、ライオンズクラブのメンバーも毎年減少しており、この現象を見ただけでもただメンバーにライオニズム(崇高な人道的奉仕の理想に専念する)を、唱えても各クラブの会員維持及会員増強を計るのは、大変厳しいものがあると考えております。

我々ライオンズクラブのメンバーも経済環境と密接に関わりながら、会員各位の生活とクラブ活動をどう折り合いをつけて行くかと云う事が大切なことと考えます。

毎年度MERL委員会で、会員維持・増強について討論を重ねておりますがなかなか決定的な打開策が打ち出せないでいるのが現状です。この現実を踏まえ本年7月より船出する黒松内茂尾キャビネットの一員としてリジョン内の各クラブの交流を密にして茂尾ガバナーの指導のもと、この一年間しっかりと職責を全うしたいと思っておりますのでクラブメンバー各位のご協力とご指導頂けるよう宜しくお願い致します。



第2R第1Z
ゾーン・チェアパーソン

L 佐々木 忠康

(小樽LC)

小樽LCがキャビネットの役員を引き受ける度に、私は先輩ライオンのゾーン委員、リジョン委員として又、PR副委員長、大会事務局長と今に思えば関わり深いものを覚えます。そして今回の役職就任に改めて気概を強くしたところであります。

さて、ライオンズクラブの現状は厳しいものがあるのはご存知の通り言うまでもありません。その中であって私の与えられた職責を全うするには、茂尾ガバナーの掲げるスローガン「チェンジにチャレンジ」に基づき3つの課題について1ゾーン内6クラブの全員と共に考え、具現化したいと思っております。

第1はクラブの現状とチェンジへの意志確認

第2はクラブチェンジへの方策と課題

第3はクラブチェンジの結果の検証

つまり、各クラブの将来のビジョンをより具体的に提言できれば、ひいてはキャビネットの求心力も高まることに繋る。その橋渡しに微力ながら努めていきたい。



第2 R第2 Z
ゾーン・チェアパーソン
L 草 野 伸 彦
(小樽中央LC)

この度第2 R第2 Zゾーンチェアパーソンに就任いたしました。本来であれば大先輩のL岩永篤が就任の予定でしたが、都合により退会され急遽未熟な私が就任いたしました。茂尾実ガバナーのスローガンであります「チェンジにチャレンジ」はまさにスローガンの通り各クラブが一丸となり取組んで行かなければならない大きな課題と考えます。キャビネット会議において決められた事、各クラブからの要望等、キャビネットとクラブの皆様の橋渡しとしてお役に立って行きたいと考えます。ライオンズクラブは奉仕団体です。強制力はありません。だからこそ各クラブ会員1人1人が力を合わせて行く事が必要と考えます。ご協力よろしく御願ひいたします。



第3 R
リジョン・チェアパーソン
L 館 市 弘 太
(伊達LC)

本年度、茂尾ガバナーのもと、第3 R・RCPとMERL委員会副委員長を拝命することになり、大変緊張しております。

現在、ライオンズの喫緊の課題は、会員の減少傾向にいかにして歯止めをかけるかです。

ガバナースローガンは「チェンジにチャレンジ」です。「全ての組織や団体は、将来に対するビジョンと日々の改革がなければやがては淘汰される」として、活動のマンネリ化や会員減少に長引く不況だから・・・と諦めてしまうことから脱しなければならないという強い危機感の

現われであります。

クラブ訪問等を通して会員交流を深めながら、課題を共に考え少しでも前進させたいと考えております。よろしくお願いします。



第3 R第1 Z
ゾーン・チェアパーソン
L 高 橋 國 夫
(室蘭LC)

この度第3 R第1 Zゾーンチェアパーソンを拝命致しました。入会6年目という経験の浅い自分にこのような大役が務まるのかどうか大いに不安なのですが一年間何とか無事乗り切りたいと思っておりますので茂尾実ガバナーはじめキャビネット役員、地区役員の諸先輩のご助言・ご指導を切にお願いする次第です。茂尾ガバナーのスローガン『チェンジにチャレンジ』の精神で、会員減少等沈滞ムード漂う 331-C地区の活性化に少しでも力になればと思っております。クラブ訪問では他のクラブの例会等勉強になることが多いだろうと期待しております。ゾーン委員共々一年間よろしくお願いいたします。



第3 R第2 Z
ゾーン・チェアパーソン
L 藤 井 幹 久
(室蘭東LC)

この度第3 R第2 Zゾーンチェアパーソンの任を拝命し、その責務の重さを痛感しております。

この度のキャビネットが三役も含め第2 リジョン全体で支援されるという新たなチャレンジに心から賛同し、地区ガバナー茂尾 実Lの基本方針の下、更にはキャビネットが有って





331-C 地区 役員ご挨拶

クラブが有るのではなく「主権在クラブ」であると言うガバナーの思いを共有しつつ、ゾーン内クラブが活性化する為に何が必要か？何が出来るか？そのチャレンジを支援するための一助に成るべく、一年間学ばせて戴きながら職責を全うして参りたいと思っております。

キャビネットは学ぶところでは無いと言うご意見もあろうかと思いますが「日々これ勉学」皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。



第4R
リジョン・チェアパーソン
L石崎 幸男
(上磯LC)

この度、リジョンチェアパーソンという大役を任命され、責任の重さに戸惑いと不安で一杯でございます。

当初、私自身の力量も省みずお受けした事を非常に後悔致しました。

しかし、一旦お引き受けした以上、私の信条である「小さなことも誠実に行えば、大きな幸せに結びつく。求められた役割を笑顔で努力」を実践しようと心機一転。

多くの優秀な先輩ライオンの中で、キャビネットと各12クラブとの重要なパイプ役を、浅学非才な私が、どれだけの責務を果たす事ができるか、全く未知数であります。与えられた役職を、微力ながら努力致して参ります。一年間、会員の皆様と楽しく・仲良くクラブ活動ができますよう心からご協力お願い致します。



第4R第1Z
ゾーン・チェアパーソン
L岩崎 義則
(函館東LC)

茂尾実ガバナーのもとで、第4R第1Zのゾー

ンチェアパーソンを拝命いたしました函館東LC所属の岩崎でございます。

ガバナーのスローガン、「チェンジにチャレンジ」のもと、日々マンネリズムを廃し、常にフレッシュな考え方で、山積している難題を一つでも解決できるよう微力ですが、頑張りたいと思います。

第4R第1ゾーンは函館市内3クラブと近郊の2クラブの合せて5クラブで編成されています。石崎リジョンチェアパーソンの指導を頂きながら、この5クラブとキャビネットの橋渡しをスムーズに行いクラブの硬直化を防ぎ、常に活性化が行われるように頑張りたいと思います。

もとより、浅学非才のこの身であります。力いっぱい有意義にこの一年間のライオンズクラブライフを過ごせるよう頑張りたいと思います。



第4R第2Z
ゾーン・チェアパーソン
L堀野 明
(函館中央LC)

2010年7月から一年間、地区ガバナーL茂尾実の指導の下、ゾーン・チェアパーソンに就任したL堀野です。どうか宜しくお願い申し上げます。

さて就任の抱負ですが、ガバナーズスローガンであります「チェンジにチャレンジ」の主旨を各クラブに理解し、協力して貰えるよう微力ながら努力することです。331C地区の発展、繁栄のためには減少傾向の会員数に歯止めを掛け増加に転じなければならない必要があります。これはどのクラブも常に話題にし、悩ましいことランクの第1位です。我が函館中央LCも、本来であるならば、ゾーン・チェアパーソンのクラブからの選出適任者は何人も居たのですが、退会者が出て私に巡ってきた事情があります。会員増強、これはガバナー方針に叶った「主権在クラブ」の基礎となるものであります。



いずれにしても各クラブの協力が無ければ何事も前に進まないのが現状です。各クラブの協力をお願いし、ゾーン・チェアパーソンの重責を全うできることを願い、就任の挨拶とします。



第5R
リジョン・チェアパーソン

L石丸 保志
(苫小牧ハスカップLC)

この度、第5R RCに選任されその責務の重さを痛感しております。今期茂尾ガバナーのご指導はもとより、茂尾キャビネットの皆様のお力添えをお願い申し上げる次第です。

今日、日本の経済不況が長引く中。会員の減少に歯止めがかからない現状で各クラブとも会員維持のため大変な努力が続けられている事と思います。いかに会員同士が議論しながら互いに理解し合い輪を広げて行く事が大切かと考えております。その為にも二人のゾーンチェアパーソンの方と連絡を取り合い、キャビネットの考え方をリジョン内の各三役の皆様へ報告し、ライオンズ精神である友愛と相互理解のもと皆様との意見交換を大切に、その任に務めてまいりたいと思います。

会員各位の協力をお願いし就任のご挨拶とさせていただきます。



第5R第1Z
ゾーン・チェアパーソン

L中道 一三
(静内LC)

この度、331-C地区第5R、第1Zにてゾーンチェアパーソンを務めさせていただく事に当たり一言御挨拶を申し上げます。

静内ライオンズクラブ49代会長の任を、やっと終えてのキャビネット役員の就任となり、別の意味で大変身の引き締まる思いであります。この一年間はL茂尾実ガバナーの基で、キャビネットと各クラブとの業務連絡、意見交換、情報伝達等の橋渡し役として、皆様方の経験と知恵をお借りしながら頑張る所存でございますので、宜しくお願い致します。

又、私の所属する静内ライオンズクラブも今期(2010～2011)で結成50周年を迎える事となります。その節には皆様方にお世話になる事と思いますので、ご支援の程を重ねてお願い申し上げます。



第5R第2Z
ゾーン・チェアパーソン

L照井 靖幸
(早来LC)

この度第5リジョン、第2ゾーンのゾーンチェアパーソンを拝命頂きました。クラブの新しい年度を迎え、当ゾーンのライオンズの皆様、並びに新キャビネットの方々と共に仕事をさせて頂くに当たり、身の引き締まる思いの毎日で御座います。去る5月16日の第56回年次大会に出席させて頂き、時期新ガバナー茂尾実ライオンの御挨拶には、深い感銘を受けました。氏の下、キャビネットの末端の一員として、クラブ発展の一助と成れば幸いと存じます。宜しくお願い申し上げます。





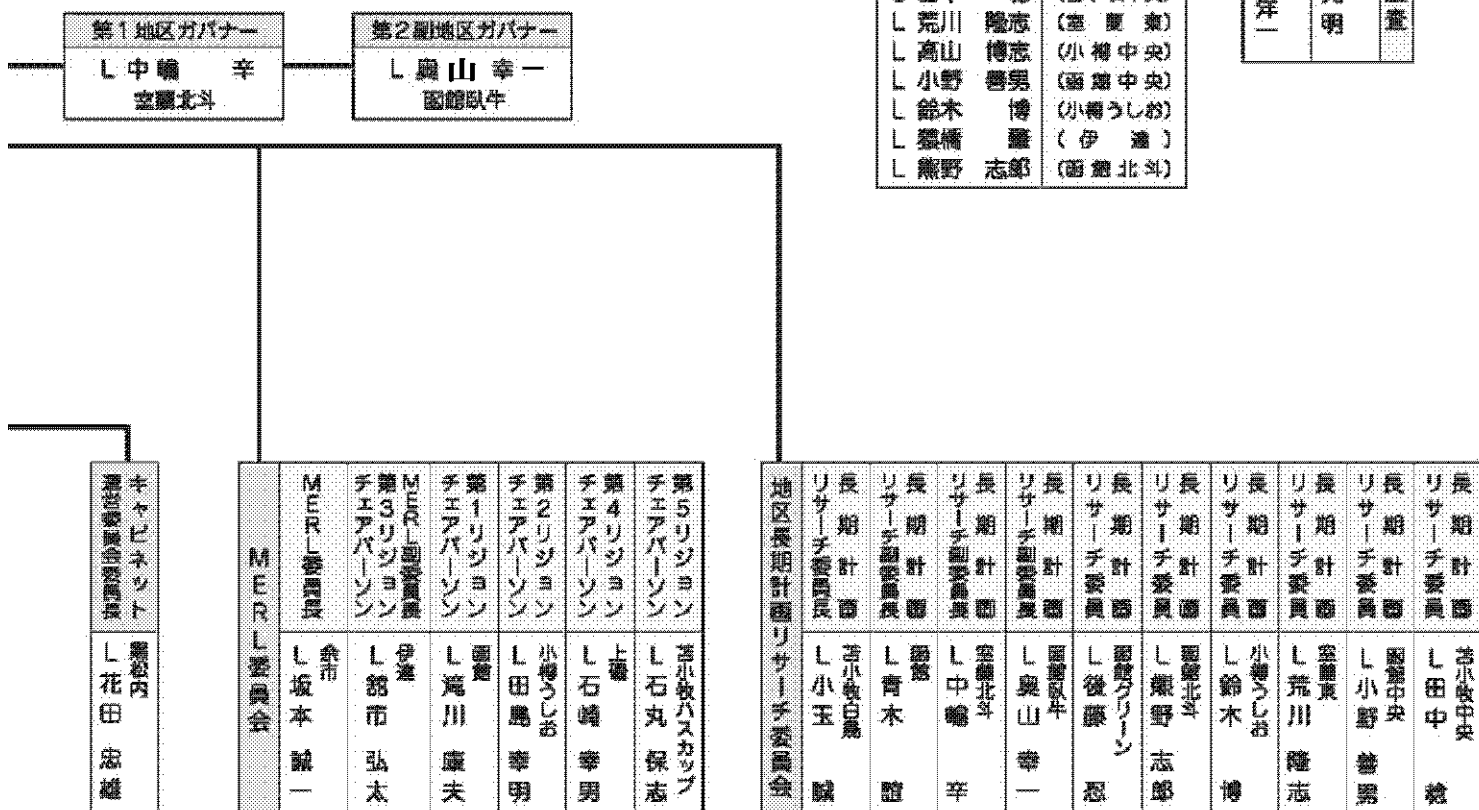
キャビネット幹事
Ｌ 木村 征二 倶知安
キャビネット会計
Ｌ 酢谷 昭雄 岩 内

伊達	室蘭東	洞爺
会長し佐々木義雄	会長し荒川隆志	会長し大久保和幸
登別中央	室蘭北斗	白老
会長し林田康光	会長し石井みづ江	会長し長島義雄
登別	別	室蘭
会長し渡辺尚彦	会長し高橋國夫	

331-C 地区組織表

地区名誉顧問		
小玉	誠	(活小 白鳥)
後藤	忍	(富留 グリーン)
寿浅	弘幸	(伊 達)
田中	寛	(活小 中中央)
荒川	隆志	(室 栗 森)
高山	博志	(小 樽 中央)
小野	善男	(函 館 中央)
鈴木	博	(小樽 うしろ)
猿橋	肇	(伊 達)
熊野	志郎	(函 館 北斗)

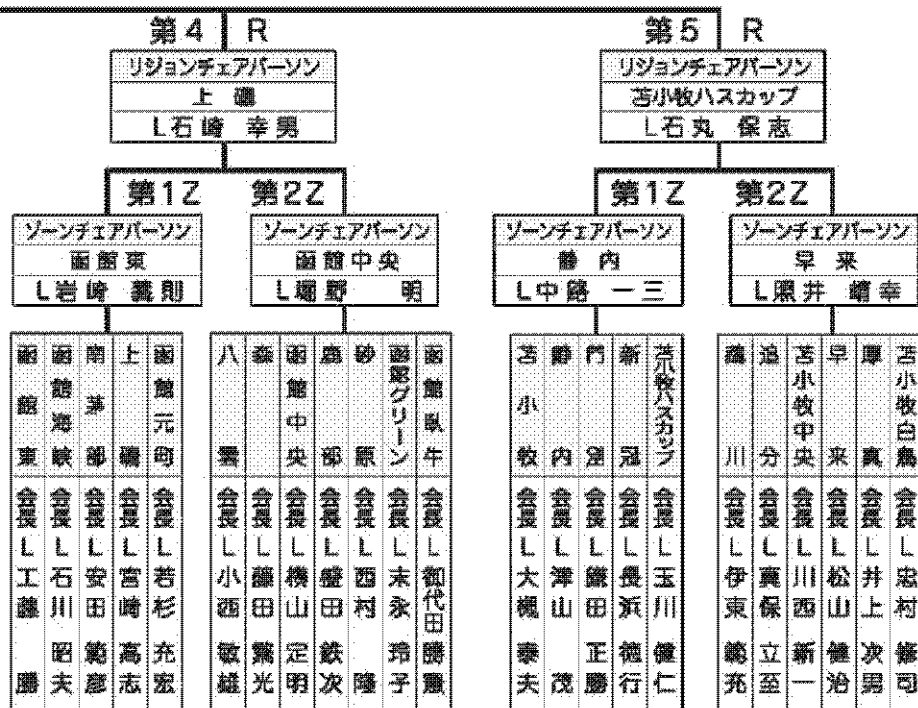
地区会計監査	小樽	余市	佐々木 洋一
	岸田 光明		



キャビネット運営委員会					
委員 堀松内 昭	委員 堀松内 昭夫	委員 海部 俊作	委員 堀松内 昭	委員 堀松内 昭夫	委員 堀松内 昭
副委員長 堀松内 昭夫	大企業局長 堀松内 昭夫	山下 正			

青年アカデミー委員会				
委員長 L 松川 武彦	書記 L 大広 直	書記 L 谷口 和弥	書記 L 渡部 義男	書記 L 若小牧中史

ゾーン委員	
第5R第2Z	早 来
第5R第1Z	辯 内
第4R第2Z	副 中 央
第4R第1Z	函 館 東
第3R第2Z	室 蘭 東
第3R第1Z	室 蘭
第2R第2Z	小 樽 中 央
第2R第1Z	小 樽





これから始動する黒松内キャビネットが開催した研修会は、178名の参加を得ました。約2時間の全体会議は、複合地区議長L後藤忍のご挨拶に続きガバナ―エレクトL茂尾実がスローガン・基本方針を発表された。

L市川仁也の講演の後、三部会に分れて、研修が行われた。講演された「リッチランドの壺」で有名な青森ライオンズクラブL市川の「我が人生とライオンズクラブ」の原稿をL茂尾に抜粋して頂きましたのでご紹介致します。

「我が人生とライオンズクラブ」

講師 ライオンズクラブ国際協会 332-A 地区
青森ライオンズクラブ元会長

L市川仁也

講演の招き、次期ガバナ― L茂尾実氏との出会いと3年にわたる付き合いがあったこと。私よりはるかに厳しい人生を送られた人もおられると思うが、私の場合、ライオンズクラブという奉仕団体に助けていただいた、そしてそのことが東北で最初の「青森ライオンズクラブ」創設に繋がっていったという事が今日の講演になったということをお話し頂きたいと思います。

74年の人生航路の歩みと、ライオンズクラブによって援助を受け、それからの、人生がどのように展開し、そしてどのようにライオンズクラブへの恩義を考え、どのように対応してきたか、今何を考え、後半の人生をどのように生きようとしているのかを時間の許す範囲でお話したいと思います。

L茂尾実 331C地区次期ガバナ―との出会い、3年前平成18年8月25日姉妹クラブの小樽ライオンズクラブの50周年記念式典に青森ライオンズクラブ、ライオネスクラブから総勢10名、その中で会長として出席した際、小樽ライオンズクラブの八田会長によって紹介された人が、331C地区MERL特別委員長の茂尾実Lであった。平成19年5月には、331C地区年次大会の特別号に茂尾実Lが寄稿して、「リッチランドの壺」という記事で私のことが大きく報道されました。

その茂尾さんからの以前から「講師」でお招きしたいといわれていたので、普通であればお断りするところではありますが、敢えて今回はお受けすることと致しました。331C地区の幹

部研修会の講師に招かれて大変「光栄であり恐縮」に思っております。何故、今日このような機会が与えられたか、それは「キリスト教徒」の私には神の導きと恵みであり、私がこれからの話が皆様のライオンズの奉仕の生活と今後の人生に少しでも参考になることがあれば「望外の幸せ」であります。

昭和11年3月2日青森市に生まれました。大きい家でしたが1945年青森空襲で1夜で焼け野原となり、父の意向で青森市内より20Km離れた父の事業と実家のある西田沢村夏井田の山に疎開。父は田舎の村か「青森中学」に進み「明治大学」を卒業、教諭、漁業組合の資材課長、兵役は手に障害があったため徴兵免除、そして政治に関与し東亜連盟の青森支部長の経歴があったことが後に分かる。母は、弘前の商家の生まれでありました。当時、家族は父が40歳、母が33歳、姉が小学校5年、私が小学校4年、弟が1年生の5人家族。私達の家のほか残りには事業の関係者が入居しておりました。父の製塩工場の建設途中、父が急に病床につき数日で亡くなった。事業は必然的に解散となりました。父は無念だったと思います。

父の死後、生活は一転、苦難の生活が始まっていきました。

中学校を卒業して姉と同様、働こうかと考えたが母と姉から高校に行くように言われて高校に進学することにし、普通高校か実業高校か迷ったが大学に入りたい希望があったため、普通高校の青森市立第一高等学校に入学した。その頃、学校に33歳で途中入学してきた「福士忠夫」という人がいて、私に「英語」を教室で個人的に教えてくれた、その人は高校を卒業後弘前大学に入学、卒業後別の大学の大学院に進み、卒業後は大学の教授になった人物であった。その

「福士忠夫さん」からカナダ人のミスター、リトルという宣教師による「バイブルクラス」の情報と参加の誘いがあり、生の英語を勉強するために参加して勉強を始めた。

それは高校2年から3年にかけての頃であった。勉強した甲斐があり成績も上がって3年頃には、クラスの上位にランクされるまでになっておりました。

2年の頃、「バイブルクラス」でキリスト教の有名な先生である「賀川豊彦先生」の講演会が青森市で開かれるという話を聞いて、その講演会を聞きに行った。後日「日本キリスト教団、青森教会」から礼拝の出席案内のハガキが届けられました。

その教会に通って1年もたたない頃、青森バプテスト教会が青森で伝道が始まり、青森県立図書館で音楽伝道集会が盛大に開かれた、その中に初代牧師の豊原敏郎先生、先生は牧師になる前は、「公認会計士」又初代宣教師にはハルパーソン先生夫妻と家族の子供達さらに、米国本土から多くのアメリカ人の信徒が来て伝道集会を盛り上げました。一方宣教師のハルパーソン先生夫妻は映画俳優のような素敵な先生で、毎週日曜日教会の礼拝に出席する時は「ブルーのシボレー」で通って来ておりました。青年会では積極的に会を纏めていたので、知らない間に私が、教会では欠かせない立場になっていた。豊原牧師の「牧師館」や、ハルパーソン先生の「宣教師館」には、よく遊びに行き親交を深めていた。

昭和29年高校卒業時、進学の際は依然として残ったが、経済的に進学が出来る状況でなかったため、就職の道を選んだが、しかし、昭和29年は未曾有の就職難の時代で、特に片親の私にはまともな就職先は見つかりませんでした。最初に見つけた仕事は、職業安定所の期限付きの臨時職員の仕事であった、その仕事が終わってからは、左官の仕事、市役所の水道メーターの検量の手伝い、日本赤十字社のアルバイト、書籍店成田本店には正式に入社出来たものの、雑誌の配達の仕事で将来の自分の仕事で無いと思ったため、一年で退職しました。

毎日「東奥日報の求人広告」を見てその中で「三沢米軍基地の通訳とクラークタイピスト」の求人広告が、待遇も良く、目にとまり、この「クラークタイピスト」目指して勉強することとした。

早速タイピストの資格を得るために、アルバイトの仕事を続けながら夜、青森市内の「菅沼タイピスト養成所」に英文タイプを習うために入所したが、英文タイプライターは一台、当時の国鉄の払い下げの機械で、教えてくれる先生もいない、正に独学での「英文タイプライター」技能取得でありました。

ある日、家を出て道路を歩いていると左目がおかしいのに気がつき反対側の右目を閉ざし左目で前方を見たら、かすんでぼんやりとしか見えない。慌てて、そのまま近くの「油井眼科」に行き、検査をしたらその場で叱られました。これは、「網膜剥離」という病気で、大病院で手術を受けるしかなく、放置すれば失明するといわれ目の前が真っ暗になり、天は「私を見捨てたのか」と思いました。教会に行き豊原牧師に相談しました。先生は、その場で「すぐ入院しなさい」と勧めてくれましたが、当時私には貯金もなく、健康保険もない時代で、私の最大のピンチでありました。青森市内の「県立中央病院」に入院。手術は成功し、1ヶ月絶対安静とその後約1ヶ月入院、2か月の間入院生活が続きました。手術後の検査では、左目の視力が0.3近くまで回復しているのがわかり、ほっとしたのと同時に、大きな喜びでありました。

そして入院中、地元新聞「東奥日報」取材があり、ライオンズクラブの支援によって救われたという、私のことが大きく報道され、私の医療費がこのライオンズクラブによって支払われたことを知らされました。

豊原先生とハルパーソン先生は、私に医療費のことで余計な心配をかけないためにあえて教えなかったのだと思います。

後で知らされたことは豊原牧師が私の病気と入院費用について、手術で完治するまでに5万円がかかるということを、ハルパーソン宣教師に相談、ハルパーソン先生はその費用の捻出に奔走したが、戦争の復興に明け暮れる人々にとって容易ではなかったために、ハルパーソン先生はリッチランドの自分の母のもとに青森教会の近況報告とあわせて、私の治療費の協力をお願い出来ないかと手紙を書いた。手紙を読んだ母は、ちょうど夫の弟にあたるロバート、ハックルベリーという人が「ライオンズクラブ」に所属していたところから、青森のハルパーソンの

手紙の意を伝えたところ。早速そのことがクラブの理事会に報告され、例会に諮ったところわずか5分間で150ドルが集められました。そして、これを日本の少年のために送るが、就いては、青森にはまだ「ライオンズクラブ」の結成をみていないようなので、「東京ライオンズクラブ」に送るという内容であったそうであります。

「アイ、ファンド基金」、後に「リッチランドの壺」、今日この会場に持って来ました。1956年に遙か海を越えてアメリカの小都市リッチランドの「ライオンズクラブ」が、愛の手を差し延べようというその行動に、ライオンズの社会的な位置付けと方向をみせつけられる思いであった。

永野護会長は、「みなさん、このリッチランドからの拠金は、このまま東京クラブが預かりして、私共もこの奉仕活動に手伝わさせていただきたいと思います。青森の少年のために、アメリカの人達の好意に頼ることは、日本のライオンズクラブとして黙視しているわけにいかないではありませんか」と会長のこの提言に異論をはさむ会員は一人もいなかった。人道主義的奉仕活動の目的のために、リッチランドから送られた拠金は、そのままアイ、ファンド基金として、例会毎に会員がいくらかずつ積み立てていくことにし、アイ、ファンドの壺を作ろうではありませんか」これにも異存のある会員はいなかった。こうして「東京ライオンズクラブ」の例会毎に、その壺が会場の入り口に用意され、会員の好意ある拠金がこの壺にいれられた。「東京ライオンズクラブ」では、この壺を「リッチランドの壺」と名づけ、拠金をつづけていったのである。拠金の中から、医療費として1回目、20,000円2回目に20,000円が青森県立中央病院に支払われた。中身の話は私には、知らされていなかったが、私は大変な善意の秘話があったのかと感じました。「青森ライオンズクラブ」が「東京ライオンズクラブ」のスポンサーで1956年東北で最初に誕生、最初の事務局は「青森バプテスト教会」の豊春牧師が準備、事務局は教会。病院から退院後、青森バプテスト教会に復帰、礼拝や青年会の会合に出席するなどしている中で、求道者の一人で教会に出席していた永井姉妹から、思いがけない就職の朗報を聞いた、それは丸通の日本通運青森支店が、英

語が出来る人を探しているというものであった。早速会って話を聴くと、英語が出来る人を会社が探しているということであった。それは、米軍の特殊輸送が青森港で始まる、本社と米軍が輸送契約を締結したが対応する人材がいない、そこで米軍を相手に仕事出来る人を捜しているということであった。臨時ではあったが採用が決まり、米軍の輸送業務を担当することになった。それは昭和31年11月のことであった。昭和32年2月、会社の高校新卒の採用試験が始まるころとなり、輸出入業務も始まっていたため、採用試験は競争相手がなく無競争採用となりました。20歳で入社して32歳で主任に、34歳で海運係長昇格しておりました。保志支店長は全国で最年少の48歳で、本社企画課長から青森特定支店長に着任してきた。諸団体の会合に課長に代わって出席する私と付き合いが始まりました。青森を離任する時に、私に「本社転勤させる」と言って去った。本社採用でない私には考えられない転勤命令であった。転勤を受けるか否か迷ったが、断れば負けと思い受けることを決意した。

本社、国際輸送事業部、輸出プラント課主任としての転勤でありました。そこは日本通運の中で、海外を相手にするエリート集団でありました。配属は中近東、イラン担当のプラント輸送で、送電線の現地輸送を現地駐在の担当と連絡をとりながら、円滑に取り仕切る仕事と、その他進出の企業からの依頼による見積もり提出その他清算業務、荷主への請求、担当者派遣店にたいする清算経理処理等でありました。

昭和53年1月、当寺39歳で初の海外出張、借家の宿舎に着いたら配電盤の故障で電気がつかない。1週間のローソク生活、本社との連絡は、毎日片道1時間、2往復、宿舎には電話等通信設備がないため夜三井物産のゲストハウスの電話借用。輸送が1年で終了したので12月末日サウジアラビアから引き上げ、帰国の途につくことになったが、地獄から天国に昇る気分であった。帰り際に、本社より青森支店への転勤の話を聞かされました。2年後再度青森支店海運課長で赴任、以後業務、営業開発担当課長「青函トンネルの作業も担当」、後八戸支店次長で転勤、6年後再度青森支店営業センター所長「六ヶ所事業所長兼務」国際輸送業務、核燃料サイクル

関係業務、営業全般終了して60歳定年を迎えるが、請われて62歳で会社を退職。42年間のサラリーマン生活で体験した業務知識、人脈を全て活かすことを考えて事業を始めることを決意した。

通関業務、通関士の国家資格、自動車輸送取り次ぎ事業の認可の取得等必要な届、許可を取得、海上コンテナの販売、知人が支援後押しをしてくれた。「ようやく懸案の「青森ライオンズクラブ」の入会を果たす」。
平成13年3月加入の誘いを受けて、目出度く入会を果たした。

リッチランドライオンズクラブの恩義を忘れたことなく、脳裏から離れることはなかった。
昭和58年、日本通運在任中に休暇を頂き、故乗田幸三Lからの誘いを受けて「青森ライオンズクラブ」のメンバーの一行と一緒に「リッチランドライオンズクラブの40周年記念式典」に参列、お礼の謝辞を英語で述べ、地域に大きく報道された。初めて、恩人MR. ROBERT HUCKLEBERRY 夫妻に会った。自宅を訪問、部屋にはライオンズのバッジ等の用品が一面に飾られ覆われていました。

平成19年3月、第一副会長のころ、「青森ライオンズクラブ」の一行と「東京ライオンズクラブ55周年式典」に参列し乾杯の発声とお礼の謝辞を申し述べた、その状況が写真入りでインターネットを通じて全国的に報道され、平成19年2月「リッチランドの壺」基金への100万円の献金し、同年我がクラブ「50周年記念式典」が終わり、7月会長に就任、国際協会に2回、2,000ドルの献金「漸く、懸案の恩義を果たせたとの心境。」

1984年、昭和59年の今から26年前、日本通運八戸支店に転勤後、間もなく妻が「リウマチ」を発病、病院通いが始まった、「変形性膝関節炎」が悪化したため、盛岡で人工関節の手術を受け青森に帰ってからも「骨粗阻症」や甲状腺の「パセドー氏病」、そして昨年9月には甲状腺による「心不全」で、救急入院、その後は「食道裂肛ヘルニア」で入院、大変危険な状態が続きましたが、医者が手術にはリスクがあると言われて控えておりましたが、内科的な処置が無い状態に追い込まれたため、命を掛けるつもりで手術をお願いし、家族総力を上げて看病した

結果、大切な命を奇跡的に助けられました。その時私は、ライオンズのアクティビティの精神を外の人を助ける前に先ずは自分の家内の命を助けるという強い気持ちで看病していました。教会の牧師の前で「終生の誓い」をしたことを、決して忘れてはいけなと必死で神様に祈り、私は今、神様の前での「誓いの約束」を果たすことが出来たと思っており、感謝の気持ちで一杯であります。

助けられ、助ける両方の立場を経験して「助けられた人は、助けてくれた人のことは決して忘れないものだ」という事。冒頭、申し上げたように繰り返しになりますが、人はその生き方に二通りよりない、一つは自分だけの事を考え、自分本位に生きる生き方。二つ目は自分だけでなく他の人の為、世の為に生きる生き方である。人生とは、その文字の通り、人は二本の棒が支えあっている、そして「生」は生きる即ち「命」、人生とは、「お互いに助け合い支えあって生きるもの」これが「人生」ではないだろうか。これが「ライオンズクラブ」に共通する。「友愛と信頼、奉仕」の精神ではないでしょうか。

「ライオンズクラブ」は、人生最高の生き方である。それは、人を助け社会に役立つ奉仕の人生であるからであります。「ライオンズクラブ」に加入し、奉仕に身を委ねることは「ライオンズ」のその向には、助けを求めている、多くの人々の顔が待っているといことであります。

人は、知らないままにこの世に「裸」で生まれ、そして「裸」でこの世の終わりを迎え、次の世界に入る。人生は、今日生きていても、明日生きていくか分かりません。「地位」、「名誉」、「財産」は持って行けない。持って行けるのは「徳」だけだと思います。

これからの私の人生を、これまでの人々の恩を忘れることなく、人の為、社会の為に微力を尽くしたいと思っております。最後に「北海道331-C地区のクラブ」が益々発展され本日お集まりの皆様方が此の地方の灯火として、尊い「アクティビティ」活動をされ社会に貢献され、ご健勝で実りの多い人生を送られますように、心からお祈り申し上げ、「私の話」を閉じたいと思います。



委員会報告・ガバナー公式訪問日程表

2010年～2011年 第1回 地区MERL委員会報告

日時:2010年6月16日(水)14:00～ 場所:黒松内キャビネット

MERL委員会委員長 L坂本誠一

世界的な会員減少の現況から、C地区でも数年前から会員の維持増強に取り組んでおりましたが著しい効果が出ないままに推移しております。

2010年～2011年MERL委員会は、入会会員を超える退会会員があることから特にリテーション対策としてのオリエンテーションを強化させることといたしました。具体的には地区と同じレベルの教育オリエンテーションが随時クラブでも実施可能なものとするため、教育ツールとなるDVDを作成し、各クラ

ブに届けることといたしました。黒松内キャビネットがスタートと同時に機能させるため、MERL委員会でDVDの内容の検討を行いました。



黒松内キャビネット事務局紹介 ～一年間よろしくお願い致します。～

未経験の事ばかりで、函館キャビネット事務局員をはじめ周りの方々に助けられて今に至っていますが、キャビネット事務局員という重責を日々感じています。

今後ともご指導ご協力をお願い申し上げます。



キャビネット事務局員 佐々木なか子さん(左)・野上京子さん(右)

■ガバナー公式訪問日程予定表 (2010年7月～2011年6月)

R	Z	訪問日	曜日	役員打合せ	公式訪問	当番クラブ	開催場所	訪問クラブ
1	4	7月17日	(土)	16:00～ 18:30	18:30～ 20:30	函 館	五島軒本店	函館、函館北斗、函館巴 函館すずらん、南茅部、函館LSC
1	2	7月19日	(月) 海の日	15:30～ 18:00	18:30～ 20:30	江 差	ホテル ニュー江差	木古内・知内、松前、福島 江差、奥尻
1	4	7月24日	(土)	16:00～ 18:30	18:30～ 20:30	八 雲	遊楽亭	八雲、森、鹿部、砂原、今金 瀬棚、北桧山
3	1	7月25日	(日)	16:00～ 18:30	18:30～ 20:30	室 蘭	中嶋神社 蓬 咲 殿	登別、白老、登別中央、 室蘭、洞爺、室蘭東 伊達、室蘭北斗
5	1	8月 8日	(日)	16:00～ 18:30	18:30～ 20:30	鶴 川	四季の館 タンボボホール	鶴川、追分、早来、厚真 静内、門別、新冠
2	1	8月21日	(土)	16:00～ 18:30	18:30～ 20:30	小 樽	ニュー三幸	小樽、小樽中央、小樽みなと 小樽グリーン、小樽うしお 小樽LSC
5	1	8月22日	(日)	16:00～ 18:30	18:30～ 20:30	苫小牧中央	グランドホテル ニュー王子	苫小牧、苫小牧ハスカップ 苫小牧白鳥、苫小牧中央 苫小牧LSC
4	1	9月 4日	(土)	16:00～ 18:30	18:30～ 20:30	函館中央	ホテル函館 ロイヤル	函館中央、函館東、上磯 函館海峡、函館グリーン 函館元町、函館臥牛
2	1	9月 5日	(日)	16:00～ 18:30	18:30～ 20:30	岩 内	高原ホテル	余市、倶知安、喜茂別、ニセコ 京極、岩内、寿都、黒松内



■ 331-C 地区内クラブ周年行事予定表 (2010年～2011年)

クラブ名	CN	開催年月日	開催場所
倶 知 安 LC	50周年 ACT青少年 育成事業	2010年 7月25日(日)	倶知安町体育館
洞 爺 LC	50周年	2010年 9月12日(日)	ふるさとの丘総合福祉館
倶 知 安 LC	50周年	2010年 9月19日(日)	ホテル第1会館
函 館 中 央 LC	40周年	2010年 9月19日(日)	函館国際ホテル
函 館 巴 LC	40周年	2010年10月 1日(金)	函館国際ホテル
余 市 LC	50周年	2010年10月 3日(日)	余市町中央公民館
上 磯 LC	30周年	2010年11月 6日(土)	ロワジールホテル函館
室 蘭 東 LC	50周年	2011年 3月26日(土)	中嶋神社蓬峽殿
苫小牧ハスカップ LC	20周年	2011年 4月16日(土)	グランドホテルニュー王子
小樽みなと LC	50周年	2011年 5月14日(土)	グランドパーク小樽
苫小牧白鳥 LC	35周年	2011年 6月10日(金)	グランドホテルニュー王子
静 内 LC	50周年	2011年 6月11日(土)	未定
苫小牧中央 LC	40周年	2011年 6月24日(金)	グランドホテルニュー王子

〈編集後記〉

エコ誌は茂尾ガバナーの理念・方針等を正確に伝える事が第1だと考えます。

優秀なスタッフに恵まれ、心強く思いますが何よりも、各クラブのPR委員長、キャビネットの各委員長等の自由な発想の寄稿をお願い致します。なお表紙の自由でのびのびした「ECHO」のデザインは当委員のL山崎武です。

PR・IT情報委員長 L増田通彦



L 櫛田邦久・L 増田通彦・L 清水紀雄・L 岸田光明
L 山崎武・L 大倉栄治・L 佐左部洋司

エコ誌投稿のお願い並びに報告締め切り厳守の願い

※ 表紙写真は、各5リジョンを代表する山の風景を予定しております。ご自慢の写真が、ありましたらご投稿願います。(写真にまつわる文章も添付して下さい。)

※ その他、掲載希望の記事や写真がございましたら奮ってご投稿下さい。また、ご意見

ご要望など遠慮なくお聞かせ願います。

※ アクティビティ報告はマンスリー締切日を遅れた場合、次号繰越となりますので御了承願います。

※ また、HPもリニューアル致しましたので是非ご覧願います。

<http://www.lionsclubs-331c.org/kuromatsunaicab/index.html>

PR 情報 E-mail : prjouhou@lionsclubs-331c.org





▲ 黒松内最古のブナ

ー 表紙写真の紹介 ー

〔写真提供：第2リジョン 倶知安ライオンズクラブ〕

倶知安町の馬鈴しょ栽培は明治末期から始まりました。

戦後、良質な男爵薯生産が始まり、その功績が認められ数々の栄冠を受賞し、美味しい「くっちゃんじゃが」の名声を全国に轟かせました。

現在、倶知安町では耕地面積約 4200ha のうち約 1200ha(東京ドーム約 256 個分) に馬鈴しょが作付けされ、生食用馬鈴薯の一大産地として、全国に出荷しています。

6月下旬から7月中旬まで畑一面をピンクに染めるように咲く馬鈴しょの花は、「ピンクの絨毯(じゅうたん)」と形容され、倶知安の初夏の風物詩となっています。

Photo 有村 やすし 氏(表紙写真)

2010 年 7 月発行

ライオンズクラブ国際協会 331-C 地区会報



THE LIONS
ECHO

編集／ライオンズクラブ国際協会 331-C 地区
地区 PR・IT 情報委員会